

車石

揮毫：第6回卒業生
前川洋子氏

平成23年10月15日発行



<桃高応援旗>

桃山同窓会全体総会開催!!

と き：平成24年2月26日（日）

受付 12時00分 総会 13時00分

懇親会 15時00分

ところ：国立京都国際会館 イベントホール（宝が池）

地下鉄烏丸線「国際会館駅」下車すぐ

会 費：5,000円（前売りチケット制）

チケットは、各学年理事、各クラブOB会を通じて頒布
事務局へ郵便振込で直接お申込みも受付

*卒業年次 住所、氏名（旧姓）、
連絡方法（電話番号等）明記

*「桃山同窓会」（口座番号00920-7-297262）あて
振込確認後チケットを郵送します。

特別講演

京都大学教授・魚類学者・京大総合博物館所属

中坊徹次氏

演 題 「クニマスは生きている—伝説から科学へ—」

演者は、桃高第20回卒業生。「未知なるものへの飽くなき探求心」—これこそが、研究者の心を掴んで離さないものであり、現代社会に誰にも要請される柔軟な思考を支える必須要素であると、演者は主張してやまない。その迫力たるや天にも昇る勢い。今回の講演は、論者の講演を直に聞くことのできる稀有なチャンス！ 請うご来場!!

ごあいさつ



桃山同窓会
会長 山仲修矢

会員のみなさま、平素は本会発展のために温かいご理解とご支援をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

本会は「桃山の丘」で共に学んだ者の集う会として、昭和32年10月に（旧制）京都府立桃山中学校の「金城同窓会」、（旧制）京都府立桃山高等女学校の「桃陵会」、そして、京都府立桃山高等学校（全日制）の各同窓会が、合同合併し「桃山同窓会」として発足しました。その後、平成8年には永年の懸案であった定

時制同窓会の合流を受け、現在に至っております。

この間、4万名にのぼる卒業生がこの「桃山の丘」を巣立ち、各界でご活躍のことと心からお慶び申し上げます。

さて、少子化が進む一方で、児童・生徒の学びに対するニーズは多様化を極め、高等学校のみならず各教育機関では、その存在意義をかけて特色ある学園経営に努力をしなければならない時代となりました。我が母校におきましても、定時制課程の単位制への移行をはじめ、全日制課程の新学科「自然科学科」の設置、文部科学省SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定など、数々の取組みがなされているところで

このように、新しい時代に向け躍進する母校に対して、同窓会として今後ともより大きな支援をしていこうではありませんか。

いよいよ、母校創立百周年という大きな節目に向けてカウントダウンがスタートし、来る平成24年2月26日（日）午後、宝ヶ池にあります「国立京都国際会館イベントホール」にて、桃山同窓会「全体総会・懇親会」を開催すべく、総会部会長の橋本長平氏をはじめ、たくさんの方々に準備にご尽力をいただいているところです。

早春の故郷、京都・宝ヶ池にて、会員のみなさまにお目にかかれまことを楽しみにしておりますので、是非、「全体総会・懇親会」にお誘い合わせのうえご参加いただきますようご案内申し上げます。

そして、その「全体総会・懇親会」開催への取組みの一環として、桃山高校の創立記念日である10月15日に合わせて、この同窓会報「車石」をお届けいたしました。本紙が会員相互の、また母校との繋がりのひとつとして活用されますことを心から祈念しております。本紙編集にあたり、ご苦勞をいただきました柳ヶ瀬孝弘会報部会長をはじめ会報部員各位、並びに校内幹事の方々に、紙面を拝借し感謝を申し上げます。

最後になりましたが、母校の更なる発展と、同窓会のみなさま方の今後ますますのご活躍とご健康を心からお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

伏龍飛天



京都府立桃山高等学校
校長 日野純一

本校同窓会は、旧制桃山高等女学校、同府立桃山中学校、府立桃山高等学校の各同窓会が合併し、さらに定時制同窓会が加わって発展してきた歴史と伝統のある会です。桃山高校は旧制中学校の色彩を色濃く残しています。昔京都市内に旧制府立中学校は4校あり、この4校は京都市内の四方に位置しています。一中を北に配せば、二中は南に、三中は西に、そして4番目の桃中は東に配することになります。風水の四神相応から言えば東方は青龍、京の守護神となります。そこで新時代に相応しい応援旗を作ろうとブルーの下地に校章を中央に配し、四隅に「伏龍飛天」の文字を入れた旗を作成しました。青龍の青は本来緑色を意味していたので校章の色は緑にして、黄金の輝きで周りを飾りました。伏龍飛天は、力を蓄え伏した龍が今こそ天高く飛ぶことを意味しています。

大正10年創立の桃中は多くの人材を輩出し、国の青史形成に参画することを「桃陵健児の歌」に込め志としてきました。校庭に楠木正成顕彰碑があるのもその精神の継承を意味して

いると思っています。桃山高校は平成18年度より、未来を担う国際的な科学者の育成を目指し、新しく理数系の専門学科「自然科学科」を立ち上げ、昨年度実績が認められ国からスーパーサイエンスハイスクール校の指定を受けました。現在はサイエンスを素養として学ぶ学校を目指し、海外との交流や高大連携事業、最先端学問分野での体験授業など独自のカリキュラムを実践しています。校庭にある「知と感性のバランス」碑は、新しい歴史をつくるものは磨かれた知性と鍛えられた感性であることを示しています。定時制においては従来の勤労学生だけではなく、世代を越えた多様なニーズを持った生徒が学んでおり、一人ひとり独自の生活スタイルを持ちながら通っています。今後はキャリア教育の充実を力をつけたいと考えております。おりしも教育基本法が改訂され、伝統や文化の尊重、社会参画意識や愛国心等を育むことなどが加わっています。これらの視点は旧制女学校や旧制中学校以来目指してきた本校の教育方針と軌を一にします。桃山高校は誇り高い学校です。相応しい言葉は「英知」「情熱」「良識」「健康」「希望」「栄光」だと思っています。国難ともいえる東日本大震災を受け、これからの日本社会を立て直す若い世代を今後も陸続と輩出したいと考えております。同窓会の皆様の益々の御協力・御理解をよろしくお願い申し上げます。

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)とは

平成22年4月に文部科学省から5年間スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けました。全国では145校しか指定を受けていません。SSHは国の「科学技術基本計画」に位置づけられ、高等学校教育において、先進的な理科教育を実践することにより、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を推進することを目的としています。詳しくは11ページをごらん下さい。

桃山同窓会座談会

青春時代のふる里 桃山の学び舎から何を得たか
世代を超えて大いに語る!!

出席者 (敬称略)	
平田 正 昭	第4回卒業
佐々木 土師二	第6回卒業
片山 寄世史	第10回卒業
石村 卓 也	第13回卒業
和田 登美子	第24回卒業
松江 仁 (司会)	第29回卒業
川原 純 子	第29回卒業
鈴鹿 俊 夫	第33回卒業
竹中 徹 男	第34回卒業
松下 弥 生	第57回卒業
玉井 格	第59回卒業
山仲 修 矢 (会長)	第20回卒業



松江(司会)



私は第29回卒業の松江と申します。進行にあたり事前にアンケートを頂きました。それを参考に本日の司会進行をさせていただきます。

最初に簡単に自己紹介をいただきたいと思います。

平田

最後の桃中(旧制)生で、新設桃山高校附設中学生となり3年間、更に現在の桃山高校に再編されて3年を過ごし、昭和27年に第4回卒業生となりました平田です。

佐々木

7年前に退職して今年から後期高齢者となりました。佐々木です。

片山

片山です。野球しかやってこなかったので上手く話せませんがよろしく。(笑)

石村

石村です。33年から36年まで在学しておりました。桃高とのかかわりは(教職で)定時制で3年と全日制で10年勤めました。

和田

第24回の卒業じゃなくて、正確に言えば自主退学です。こんな所へ来て良いんかいな?と思っています。(笑) 大手筋で荒物・金物屋をやっています。鍋料理研究家という名前で料理もやっています。和田です。

川原

今も一番下の子が桃高でお世話になっています川原です。

鈴鹿

昨年上の娘が桃高を卒業しまして、今、2年生の娘も桃高にお世話になっています。鈴鹿です。

竹中

現在、桃山高校PTAの会長をいたしております。息子が桃高2年生で、次男も入りたいと申しておりますが、こればかりはわかりませんが・・・(笑) どなたか「竹中の息子を入れたって」と言ってもらえませんか。(笑) (数人が)無理! 無理! (爆笑)

松下

高校では吹奏楽部に入っていました。突然、安原先生の強なお誘いにより出席しました。(笑) 松下です。

玉井

高校3年間は軟式野球部に所属していました玉井です。まだ大学生です。

断然女性優位の中に放り込まれた純情少年5人

司会

この座談会は、親世代から孫世代までの幅広い年齢層の方々に出席していただいておりますが、世代間の違いの部分鮮明にする様に進めてまいりたいと思います。

平田



私が小学校6年生の時に日本がアメリカに負けました。その時住んでいた枚方から大阪の方を見れば焼け野原でした。京都の桃山には立派な学校があるというので、昭和21年に旧制桃山中学校に入学しました。

その翌年に旧制桃山高校附設中学2年生となったのですが、旧制桃山中学校がそのまま昇格しただけで、男子ばかりでした。昭和23年10月15日の学制改革により現在の(新制)桃山高校となり男女共学となりました。その時の生徒数が実に2,800人、旧桃女と女子師範が同居していた跡地に西校ができ、僅かの期間でしたが桃高には東校と西校があったことは

事実で、それだけマンモス校だった。

司会

皆さん。桃高に東校と西校があったことをご存じでしたか。

石村

知りません。(一同同調)

平田

西校に行った私達は、男5人に対し女45人の断然女性優位の共学が始まりました。「男女7歳で席を同じゅうせず」で育ってきた中で、僕等は女の中へ放り込まれた。(笑)中学生と言えば男はまだ幼さが残り、女性はちょっと色気もあって私等は女の子に引っ掻き廻された感じ。(笑)西校がなくなったのは昭和24年4月に東校へ戻り、そこで卒業しました。

司会

女の子に引っ掻き廻されたことの後遺症は。(笑)

平田

それはまたあとで話します。(爆笑)

司会

佐々木さんは丹後の方から桃高に来られたようですが……

佐々木

丹後半島経ヶ岬の村で中学3年まで過ごし、都会に出てきたのは伏見が初めてでした。実は私の両親は別居結婚でして、父は京都で高校の先生をしていました。伏見では父子家庭で、毎日いろんな店に買い物に行く。15歳の男子が買い物籠にネギなどを入れて歩く姿はどうも様にならない気がして困りました。また、こちらの言葉に適應できず、非常に落ち込み、成績も散々でした。



しかし2年生のクラスは勉強しないクラス。(笑)クラスでは女性2人が飛びぬけてでき、男達は勉強から離れて遊びに向かった。(笑)このクラスにドブプリつかり、そういう意味では学校生活に適應したと言えますね。2年生の後半によく普通の高校生になったような気がしました。

都会生活に慣れなければならぬ、勉強をしなければならぬができない、などドタバタしましたが、私は、非常に重要な時期を過ごしたように思います。友達が得られたことが何よりでした。仕事から離れる年齢に達し、仕事の交友関係が徐々に整理されていく中で、結局は高校時代の友達が残り、今もかなり親密に遊んでおります。

司会

丹後から出て来られた当時、伏見は都会だと思われたのですか。(笑)

佐々木

思いました。私がお世話になっていた酒屋に電飾があって、色とりどりの電飾がクルクル回り仰天しました。(笑)市電も走っていますよね。(笑)

片山

ホークスファンの兄の影響を受け中学校から野球を始めました。桃高に進学して硬式野球部に入ったのですが、部員が13人と少なく、1年生の秋の新チームから試合に出場させていただきました。2年生の時の監督さんから「本屋敷に成れるかも…」と言ってもらい、自分の実力もわからないまま「大学で野球をやりたい」の一心で立命に行きました。野球一筋で、ほんまに女の子に目もくれず(笑)幸せな学生生活を送りました。

司会

片山さんは硬式野球一筋で、今も野球に関わっておられるとか……。

片山

大学卒業後3年間、社会人野球に籍を置きましたが、その後何か野球に恩返しができないかと思い、盛山先生(当時桃高硬式野球部監督)の推薦もあり高校、大学、社会人の審判のお手伝いをさせていただきました。夏の高校野球第70回大会には当時の竹中審判長(座談会参加の竹中徹男氏の父君)のお引き立てで審判員を勤めさせていただきました。良い思い出です。

「ピン高」は桃高への揶揄か、「ピンからキリ」のピンか

石村

私が桃高に赴任した時は、大学紛争の影響もあって、体育祭や文化祭は生徒が自主的運営したり、服装も自由でした。一方では「ピン高」と言われた時代があった。しかし、長澤校長先生が制服導入と2足制を実施すると言われた。まず、制服を導入することをPTAと生徒会の意見を聞いた。生徒会は一旦反対もしたけれど賛成してくれ、制服導入に踏み切れた。以後「ピン高」といわれなくなった。今の桃高の礎になったと思う。

司会

僕等の中には、当時生徒会活動が活発になったという印象がありました。

石村

それはね。1960年に安保問題が起こり、当時の本校生も深い関心を持った。

司会

私も生徒会の活動をしましたが、鈴鹿さんも生徒会長をやられたそうですが。

鈴鹿

私の(生徒会長の)代のときに、先ほどの制服導入のアンケートをとりました。反対が多いと思っていましたが、開票結果では賛成が多く、生徒会で議論した上で最終的に導入に賛成しました。

司会

鈴鹿さんの時は、学校に何かを要求するとか、話し合うと言うことはありましたか。

鈴鹿

特にありません。逆にどうすれば良いかをご指導いただきました。(笑)

石村

生徒会行事は生徒の希望を尊重した。文化祭には、コンクール制を導入し、その代わりとして生徒会の意見で(文化祭に)「ロックバンド」や「さだまさし」、「鶴瓶」などの主催行事がありました。

佐々木

「ピン高」という呼び名は、私等の時代には聞いた記憶がないのですが、「ピン高」は在校生自ら言うのですか。外部の人が桃高を揶揄して言うのですか。

石村

外部です。内部の人はそんなことは言わない。

平田

私は、どこの高校の出身や、と聞かれて桃高や、といったら「ピン高か」と言われたことがあった。私は、「ピンからキリまで」のピンやと言ってやったら相手は黙りました。(笑)だからある程度、親しみを込めた言い方かもしれませんね。

竹中

今、桃高へ車で行くとサーッと門が開く。生徒が開けてくれるんですね。